

## マーケット概況（2024年5月）

5月の債券相場は、良好な雇用関連指標によりインフレ圧力が意識されて下落した米国債相場の流れを引継ぎ、10年374回債は前月末比+2.0bpの0.890%で取引を開始した。その後は、1日のFOMC後のパウエル議長の会見がハト派的であったことや、3日発表の4月米国雇用統計が労働市場の過熱感が和らいでいることを示す内容だったことから反発し、10年374回債の利回りは0.855%まで低下した。しかし、8日の10年債入札の結果がやや低調となったことや、9日に公表された4月日銀金融政策決定会合の主な意見が今後の追加利上げやオペの買入減額への意識を高める内容であったことから相場は下げに転じた。さらに、13日に行われた5-10年の日銀買入オペのオファー額が予想外に減額されたことから下げ幅を拡大した。15日発表の4月米国CPIが無難な内容となり過度なインフレ懸念の後退で米国債利回りが低下すると一時下げ止まる場面もあったが、警戒された22日の40年債入札の結果が不調に終わると利回り上昇圧力が強まり、同日に10年374回債の利回りは約11年ぶりに節目となる1.000%を付けた。23日に行われた1-3年の日銀買入オペが札割れになったことから中短期債に一時買いが入ったが、金融政策正常化への思惑から30日に10年374回債の利回りは1.100%まで上昇した。超長期債に買いが入り下げ止まったことで、結局10年374回債は1.070%を付けて取引を終えた。

### <短国市場>

月初の3M1228回債入札では最高落札利回り0.0344%と4月からの上昇傾向を引継ぎ、翌週の3M1230回債入札は0.0535%と2014年5月以来の高水準となった。6M1229回債も最高落札利回り0.0947%と投資家需要が限定的で低調な結果となり、一時は0.100%まで売られた。しかし、17日の3M1232回債が0.04%台で強い結果となると足元金利も低下傾向となったことから需給環境も良好となり、月末の3M1234回債入札ではショートカバーの動きも見られ、入札後は0.015%で買い進まれた。6Mも3Mの需給引き締まりを背景に金利低下が進み0.060%で取引を終えた。一方、1Y1231回債入札は早期の追加利上げも意識されたことから最高落札利回り0.2104%での着地となり、0.205%で月内の取引を終えるなど、3M・6Mと乖離した動きとなった。

### <一般債市場>

5月の定例地方債は、5年債と10年債がともに前月比1bpタイト化の国債カーブ対比+7.0bpの条件決定となった。5年債は3ヵ月連続、10年債は2ヵ月連続のタイト化となった。政保債・地方債の入札は引き続き定例債の起債レベルを下回って起債されており、需給の良好さが継続している。21日の社債買い入れオペは、今回から1,000億円から750億円に減額されたことから、落札金利が過去最高金利を更新する大幅上昇となった。事業債の起債は4月から続く電力・ガスの起債が増加や、その他金融の増加が寄与し、5月払い込みベースで前年同月比+39%の8,402億円（40銘柄）となった。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#374	0.890(1日)	0.855(8日)	1.100(30日)	1.070(31日)
#373	0.870(1日)	0.835(8日)	1.075(30日)	1.045(31日)
#363	0.650(1日)	0.620(7日)	0.795(31日)	0.795(31日)
#167-#168(5Y)	0.480(1日)	0.465(8日)	0.655(30日)	0.635(31日)
#188(20Y)	1.660(1日)	1.645(8日)	1.910(30日)	1.875(31日)
#1224-#1229 TDB(6M)	0.080(9日)	0.055(30日)	0.100(14日)	0.060(31日)
#1227-#1234 TDB(3M)	0.025(1日)	0.015(24日)	0.045(10日)	0.030(31日)